

あなたは的確な行動がとれますか？

次の事例を参考にしながら、もし自分だったらどんな行動をするか、こうなる前に何を留意しておくべきかなどを考えてみましょう。

9月某日 深夜2時 Aさん宅

携帯電話の緊急地震速報が鳴り、

Aさんは飛び起きました。

1 今まで経験したことのなく、の激しい揺れが起こり、家具は倒れ、立つこともできません。

数秒後、地震がおさまりました。

「みんな、大丈夫か！」

Aさんはすぐに家族に声を掛け、

全員の無事を確認しました。

しかし安心したのもつかの間。家の中は真つ暗で何も見えません。

Aさんは電気をつけようと手探りでスイッチを押しますが、電気はつきません。どうやら停電のようです。

急いで懐中電灯を探します。懐中電灯はいつもすぐに取り出せる場所に置いていたので、暗がりの中でもすぐに見つけることができました。

懐中電灯を点け、Aさんは明かりを頼りに、転倒や落下した家具やガラスの破片などで怪我をしないよう、靴をはき、ドアがゆがんで開かなくなる可能性があるため、玄関や窓を開け、逃げられるように出口を確保し

ました。

地震発生から2・3分後

「どのくらい揺れたんだろう……」

家族の言葉に、Aさんも現在の詳しい状況が気になりました。とても大きな地震だったため、津波が来るかもしれない。正しい情報が必要で

しかし、停電のためテレビはつきません。そこでAさんは昨年購入した電池式のラジオをつけました。ラジオによると、この地域は震度

6強の地震があったようです。

(これは津波が来るかもしれない)

Aさんがそう考えた時、携帯電話にメールの着信がありました。

2 昨年登録しておいた、北海道防災情報システムのメールでした。

メールによると、この地域に大津波警報が発表されたということです。

大津波警報が発表された場合は10分を超える津波が来る可能性があります。近所の電柱の海拔表示看板ではこ

の付近の海拔は4・6メートル。

4 6月28日に北海道が発表した津波

浸水予測図では、津波浸水区域になっています。

5 「すぐに逃げるぞ！」

Aさんはすぐに家族に声を掛け、近くの高台の避難場所へ避難することにしました。

6 家を出る前に、家族で非常用持出品を持ちます。

7 普段から準備し、置き場所も決めていたので、すぐに持ち出すことができました。

また、火災の原因となる電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を締め

るのも忘れませんでした。

地震発生から10分後

家を出ると、サイレンの音が聞こえます。この音は大津波警報を知らせる音です。

8 市の広報車も避難指示を周知しています。

9 Aさんは隣近所の人にも声を掛け、

高台の避難場所へ向かいます。

9 避難勧告などの発令の種類

避難勧告や避難指示は、今後の気象予測や巡視活動などの報告から総合的に判断し、皆さんの命を守るために発令され、その種類には『避難準備情報』『避難勧告』『避難指示』の3つがあります。(右図参照)

10 地域ごとの津波避難計画の策定

市は、津波からの円滑な避難を行うために、9月から地域の皆さんとともに、避難経路を定める地域ごとの津波避難計画を策定していきます。ご理解とご協力をお願いします。

危険度と拘束力	種類	発令時の状況
低 ↓ 高 ↓ 緊急	避難準備情報	人的被害の発生する危険性が高まった状態 →避難するのに時間がかかる要援護者とその支援者は避難を始める
	避難勧告	人的被害の発生する危険性が明らかに高まった状態 →危険が予想される地域の住民は指定された避難場所へ避難する
	避難指示	人的被害の発生する危険性が非常に高まった状況、あるいはすでに人的被害が発生した状況 →対象地域の住民は避難を完了していなければならない